



音声分析技術で貴社をサポート

eVOICEの音声ソリューションは、様々なニーズにお応えします。

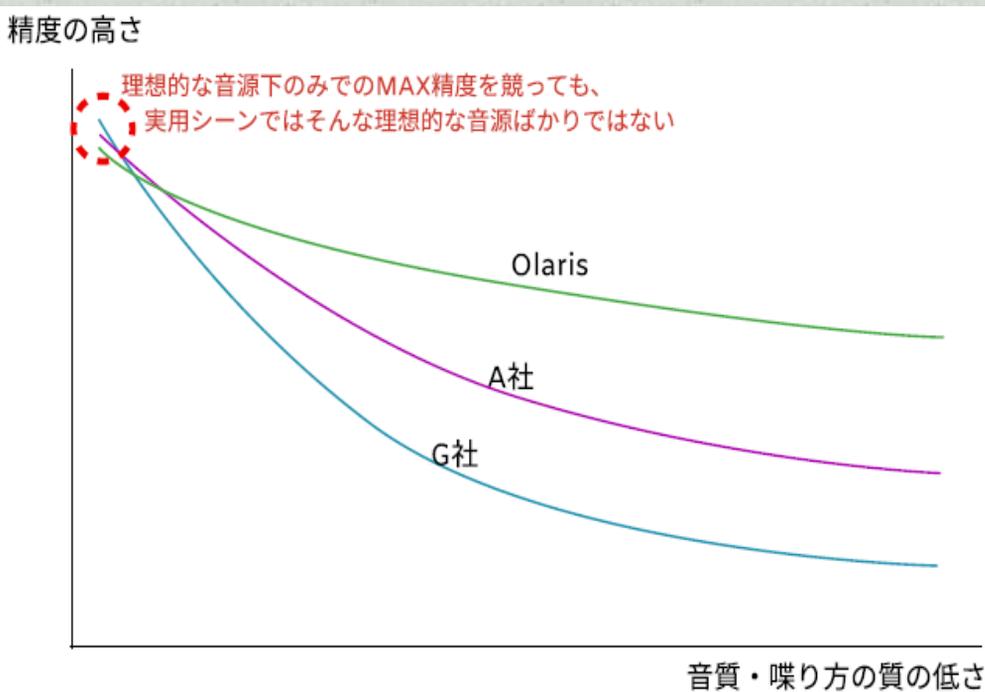
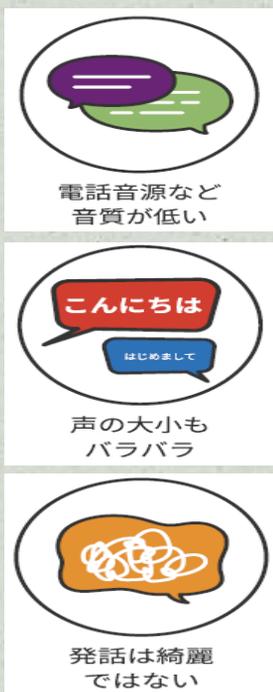
日本語音声認識AIシステム **Olaris** (オラリス)

独自の音声音響処理、自然言語処理などのAI学習・推論により、コールセンター等の電話環境下でも高い精度結果を得ることができます。

パーソナライズ可能な音声認識AIであり、各社の顧客属性に合わせた専用モデルをご利用頂けます。ご利用者様側で精度性能を日々向上させることも可能です。

CASE1. 通販コールセンター
CASE2. 医療カルテ入力

精度:80%(初期モデル) → **93%(専用モデル)**
精度:65%(初期モデル) → **92%(専用モデル)**



プレスリリース 2020年11月5日 アーニーMLG株式会社

京都大学と音声認識エンジンの開発における共同研究を開始

アーニーMLG株式会社(本社:福岡市、代表:橋本 聡、以下弊社)はベルフェイス株式会社(本社:渋谷、代表:中島 一明)ならびに京都大学と、音声認識分野における共同研究を開始いたしました。

■ 共同研究の目的と背景

弊社はこれまで、自然な会話に特化した音声認識エンジンを開発して参りました。携帯電話やスマートスピーカー等における機械への発話ではなく、人間同士の会話の認識において精度を出すことは容易ではありません。

弊社ではデータチームがデータの理解と教師データ作成、モデルの課題発見を行い、エンジニアチームがその課題の解決を行うことで着実に精度を高めて参りました。

現在、弊社の音声認識開発チームでは、音声認識エンジンを雑音下の複数話者の対話データ群にフィットさせることをミッションとしています。

しかしながら、以下のような課題に直面しており、このたび研究レベル向上に向けて、音声認識によってビジネスシーンを分析可能にすることがミッションである ベルフェイス、京都大学で大学院情報学研究科長を務める **河原 達也 教授**と共同研究を進める運びとなりました。

<研究上の課題>

- ・話者が複数いる環境での認識精度の向上
- ・雑談に近いフランクな対話における認識精度の向上
- ・プレゼン資料内容など対話環境における言語資源の活用

なお、複数話者に対する音声認識は世界的な課題です。今回の共同研究は、この課題解決にも結び付くものと考えております。

■ 共同研究の体制

京都大学河原研究室、アーニーMLG株式会社、ベルフェイス株式会社の3社による共同研究
研究期間は来年度末までの長期を想定

動作環境・導入方法

日本語音声認識AI『Olaris』は、アーニーMLG株式会社の学習成長型エンジンです。
株式会社eVOICEは、『Olaris』の提案・導入・保守が行える販売代理企業です。

■ 動作環境

OS:Ubuntu、CPU:1多重毎+1スレッド、メモリ:16GB+(1多重毎+4GB)

■ 導入方法

リアルタイム / 音声ファイル処理、クラウドサービス / オンプレミス

※ 導入方法や料金体系、POCなど、担当営業までお気軽にご相談ください。

【販売、導入・運用サポート、保守・メンテナンス】



株式会社 eVOICE

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-12 高山ビル4F
TEL: (03) 5408-5757 FAX: (03) 6809-1785
E-mail: sales@evoice.co.jp <https://www.evoice.co.jp>